

令和7年度 福島県知的障害者福祉協会 地域支援部会グループホーム満足度調査

調査目的： 本調査を通してグループホーム利用者の具体的な想いや考えを把握し、第61回全国知的障害福祉関係職員研究大会（福島大会）において、利用者の望む暮らしと私たちの仕事の価値を再確認するための一助とする。

回答方法： 調査票をメールで送信し、個別に聞き取りをしたものをファックスかメールで返送してもらった。

実施期間： 令和7年8月4日から8月30日まで

調査対象： 協会加盟施設のグループホーム利用者222名

① 調査対象者の年齢分布

年 齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未回答	合計
回答数	1	18	27	50	62	48	15	1	222
比 率	0.5%	8.1%	12.2%	22.5%	27.9%	21.6%	6.8%	0.5%	100%

今回の調査から、県内のグループホーム利用者は50代が中心で27.9%、次いで40代が22.5%、60代が21.6%と続いており、いずれも20%を超えている事が分かった。一方、若年層である20代、30代の利用者は両方の年代を足しても全体の20%程に留まっていた。また、70代を過ぎても障がい者グループホームで生活を続けている利用者も6.8%いる事が判明した。

② 調査対象者の男女比率

性 別	男性	女性	その他	未回答	合計
回答数	123	94	1	4	222
比 率	55.4%	42.3%	0.5%	1.8%	100%

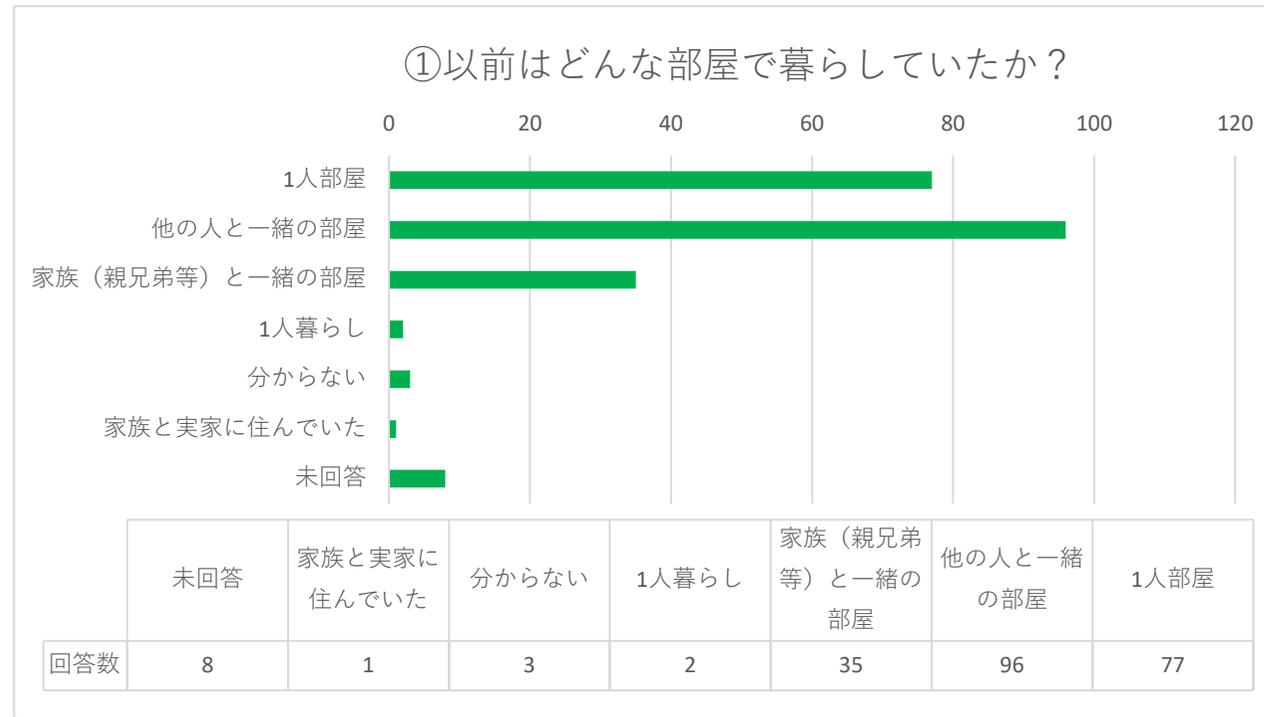
グループホーム利用者の男女比は、男性利用者数が13%上回って全体の55.4%であるのに対し、女性の利用者は42.3%であることが分かった。

③ グループホーム入居前の居住場所

居住場所	自宅	入所施設	1人暮らし	その他	未回答	合計
回答数	86	117	7	6	6	222
比 率	38.7%	52.7%	3.2%	2.7%	2.7%	100%

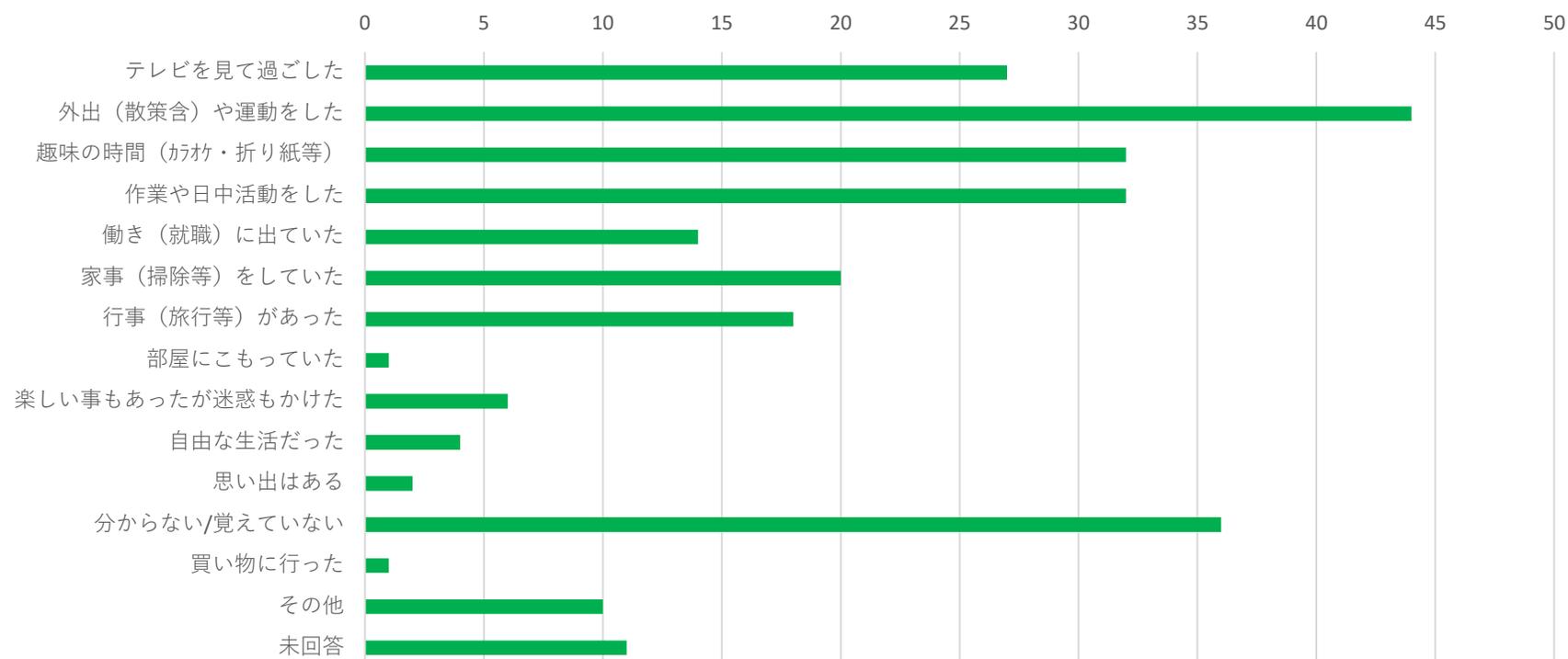
グループホームに入居する前は、52.7%の方が入所施設を利用していた。地域移行や共生社会の実現に向けた取り組みの成果として、大人数の施設収容ではなく少人数での地域生活を希望する利用者が増えたことが窺える結果となった。家族との同居も含めた在宅からの移行も38.7%に上り、全体の4割弱である事が分かった。

1、過去の話



以前の生活場所として入所施設が多かったためか、「他の人と一緒の部屋」という回答が96件で最多となった。入所施設での生活では、本人の意思とは関係なく大部屋での生活をせざるを得ない状況であったことが推測できる。また、以前は自宅で生活していた方が86件という回答であったのに対し、「家族（親兄弟等）と一緒にの部屋」と答えたのは35件で、残りの51件は「1人部屋」と答えた77件の中に含まれている事が読み取れた。同時に、入所施設での生活でも26件は1人部屋であった事が読み取れた。

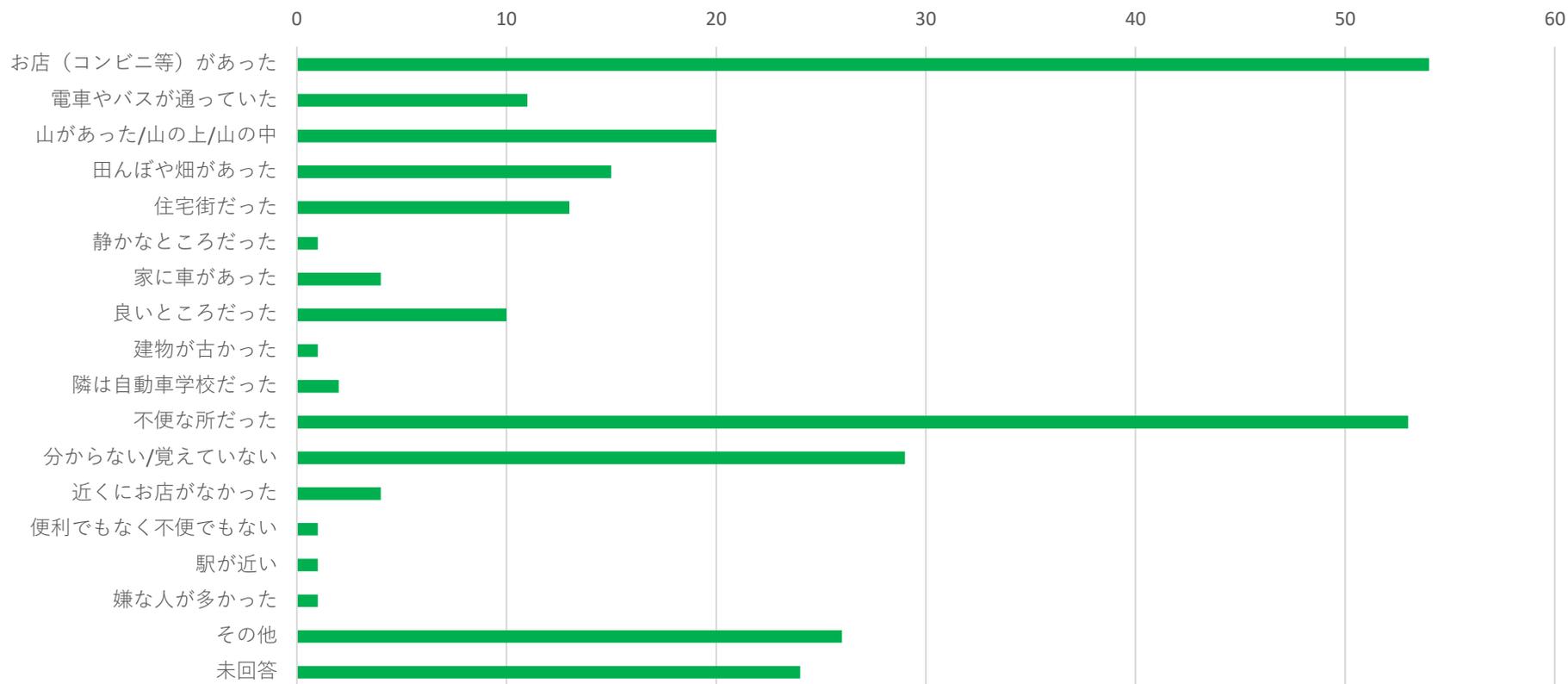
②どんな事をしていましたか？思い出はありますか？



未回答	その他	買い物に行った	分からない/覚えていない	思い出はある	自由な生活だった	楽しい事もあったが迷惑もかけた	部屋にこもっていた	行事（旅行等）があった	家事（掃除等）をしていた	働き（就職）に出ている	作業や日中活動をした	趣味の時間（カラオケ・折り紙等）	外出（散策含）や運動をした	テレビを見て過ごした
11	10	1	36	2	4	6	1	18	20	14	32	32	44	27

思い出に関する質問では「外出（散策含）や運動をした」の回答が多く、外に出て活動したことが思い出に残っていることが窺えた。「趣味の時間（カラオケ・折り紙等）」と「作業や日中活動をした」の回答が32件と同数で続いており、別紙「過去の話コメント」の中には、行事として旅行に出かけた話、就労していた話、ボランティアをしていた話などの意見も寄せられていた。

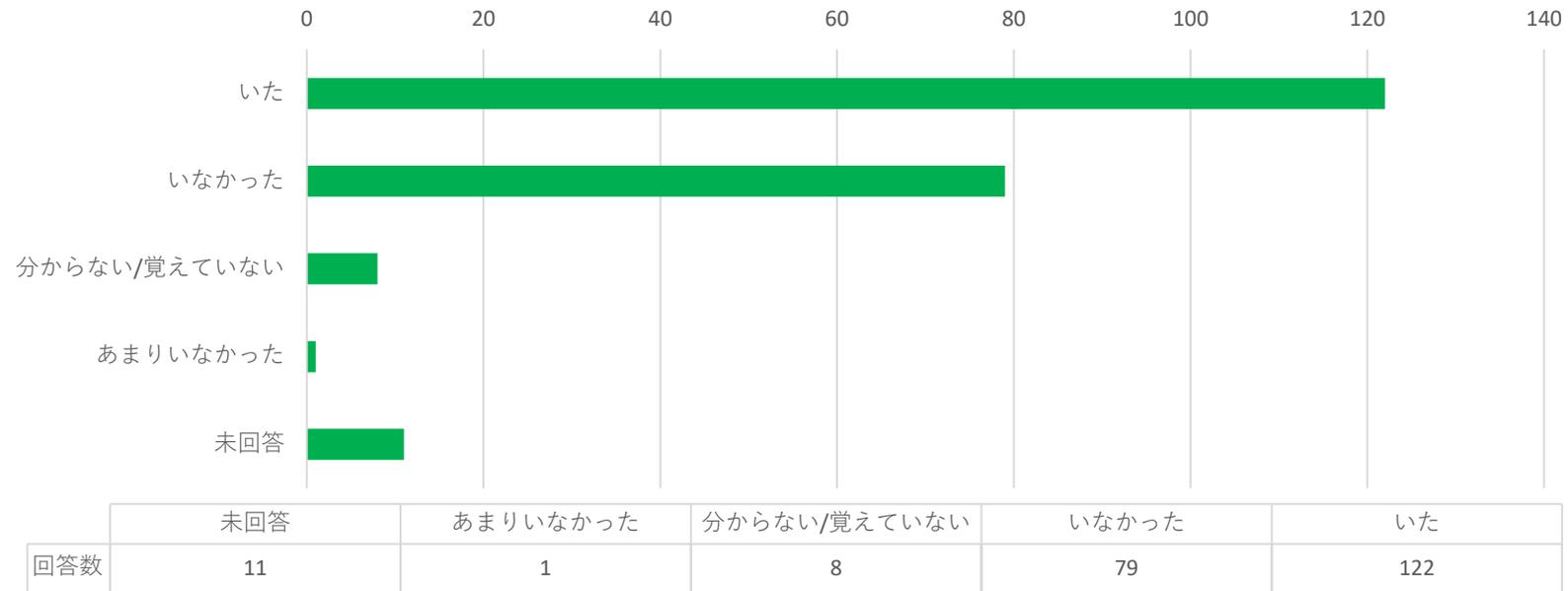
③周りはどんなところでしたか？



	未回答	その他	嫌な人が多かった	駅が近い	便利でもなく不便でもない	近くにお店がなかった	分からない/覚えていない	不便な所だった	隣は自動車学校だった	建物が古かった	良いところだった	家に車があった	静かなところだった	住宅街だった	田んぼや畑があった	山があった/山の上/山の中	電車やバスが通っていた	お店（コンビニ等）があった
回答数	24	26	1	1	1	4	29	53	2	1	10	4	1	13	15	20	11	54

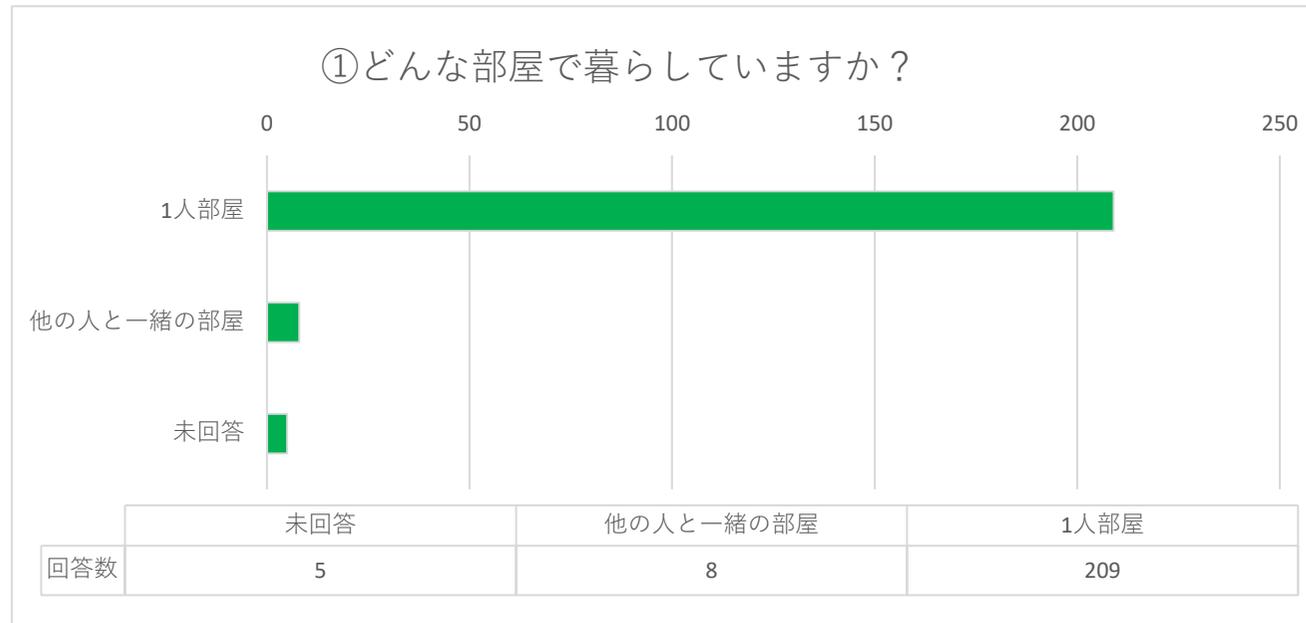
周りの環境については、「お店（コンビニ等）があった」とする一方で「不便な所だった」との回答もほぼ同数となった。この質問から過去の生活場所については、「近隣にお店（コンビニ等）はあるものの郊外の不便な場所であり、そこは山間部である」という事が読み取れた。また、「住宅街で良い所だった」という意見も少数ながら聞かれていた。

③仲の良い友達はいましたか？



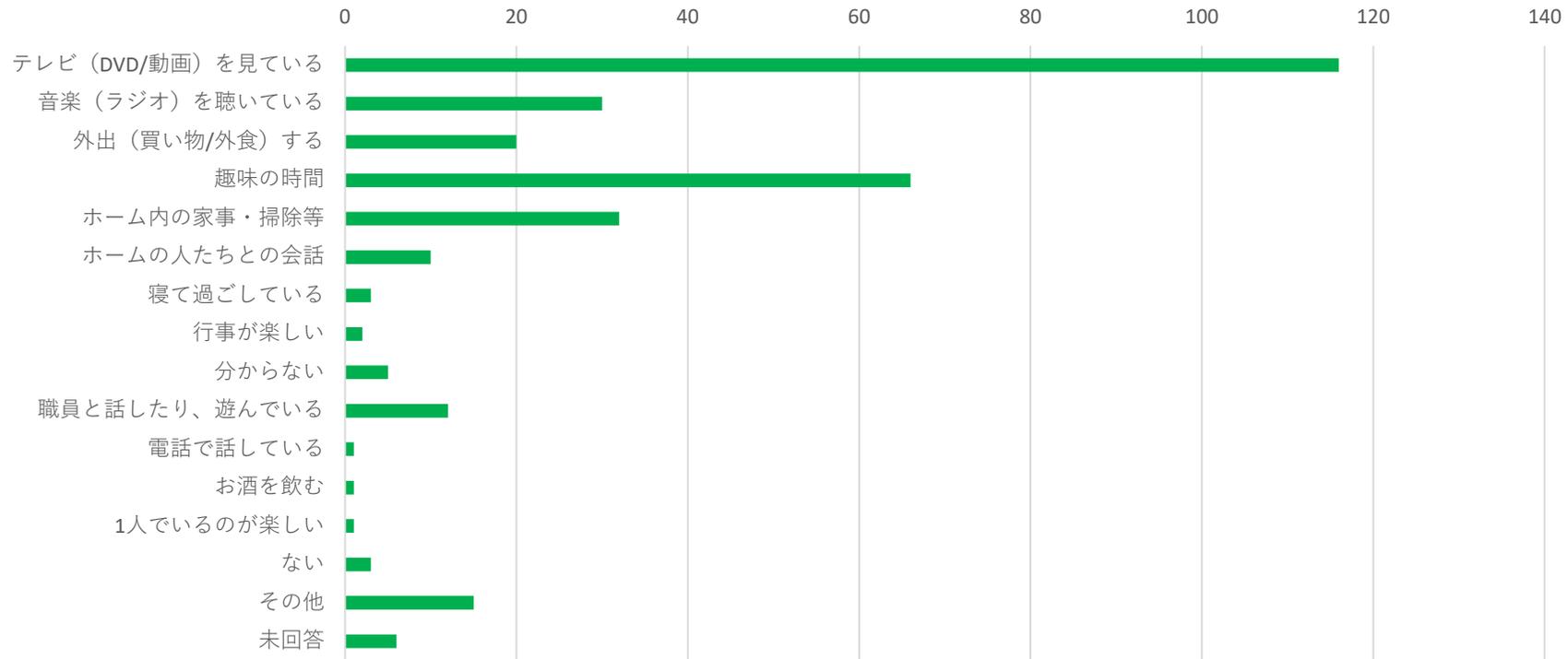
交友関係については「仲の良い友達がいいた」という回答が全体の54.9%を占めていた。コメントには「友達ではないが気にかけてくれる人がいた」とい意見も確認できた。

2、今の生活



調査の結果、現在の住まいであるグループホームでは94%の方が1人部屋で生活している事が分かった。「他の方と一緒にの部屋」に対するコメントとしては、「居間でみんなと過ごしている」、「夜間、就寝時だけ1人」というコメントもあった事から、回答者の多くは1人部屋で生活していると推測できる。

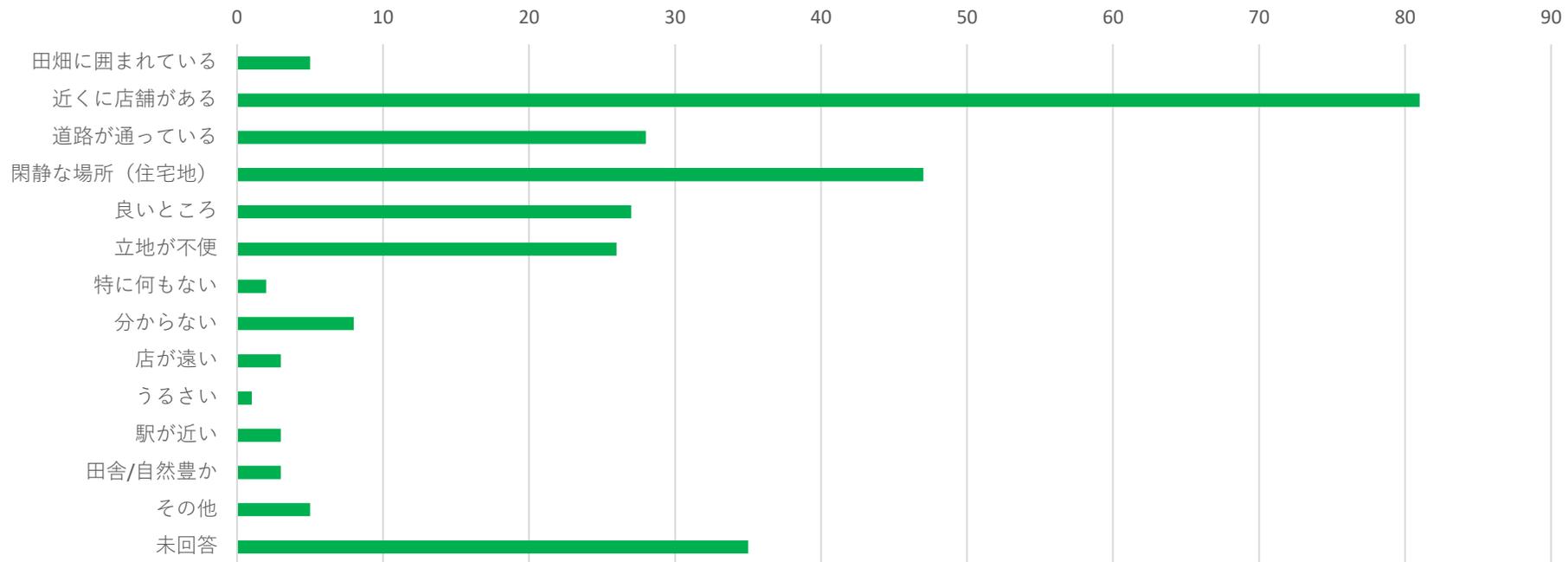
②グループホームでどんな事をしていますか？



	未回答	その他	ない	1人であるのが楽しい	お酒を飲む	電話で話している	職員と話したり、遊んでいる	分からない	行事が楽しい	寝て過ごしている	ホームの人たちとの会話	ホーム内の家事・掃除等	趣味の時間	外出 (買い物/外食) する	音楽 (ラジオ) を聴いている	テレビ (DVD/動画) を見ている
回答数	6	15	3	1	1	1	12	5	2	3	10	32	66	20	30	116

今回の調査では、グループホームでそれぞれ思い思いの過ごし方をしていることが分かった。特に多かった回答は「テレビ (DVD/動画) を見ている」で、一人部屋であることで好きな番組や動画を好きな時間に楽しむことができている環境であることが窺えた。次に多かった回答である「趣味の時間」としては「ゲーム」、「オセロやトランプ」などのコメントも確認できており、一人で過ごす以外に同じホームの人と趣味を共有している方も一定数いる事が分かった。

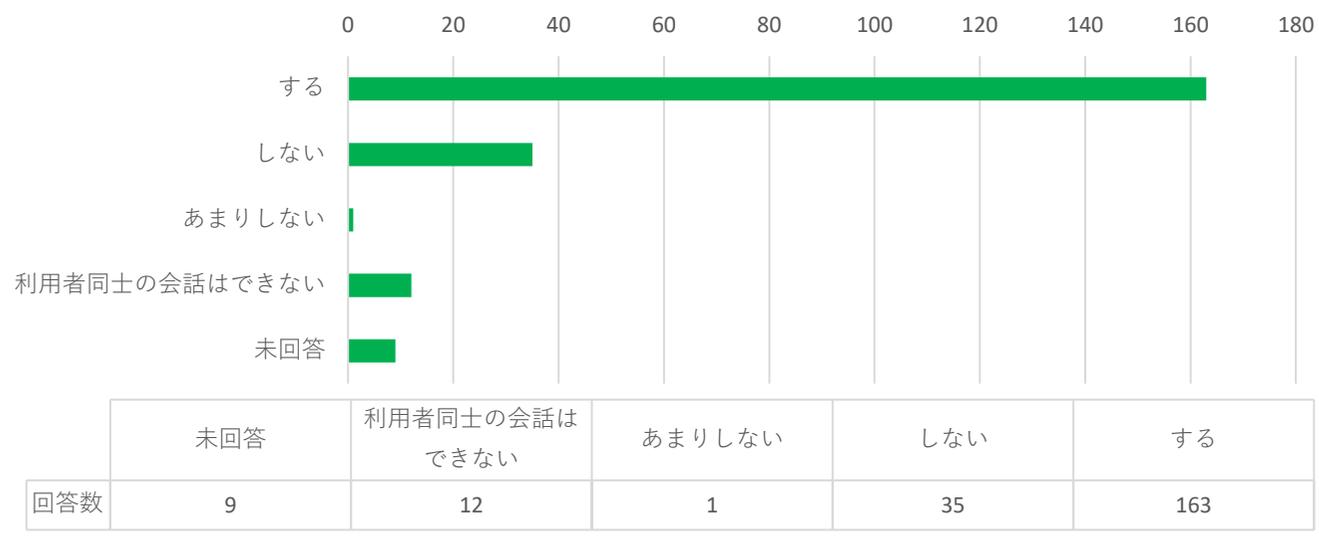
③家の周りはどうなところですか？



	未回答	その他	田舎/自然豊か	駅が近い	うるさい	店が遠い	分からない	特に何も無い	立地が不便	良いところ	閑静な場所（住宅地）	道路が通っている	近くに店舗がある	田畑に囲まれている
回答数	35	5	3	3	1	3	8	2	26	27	47	28	81	5

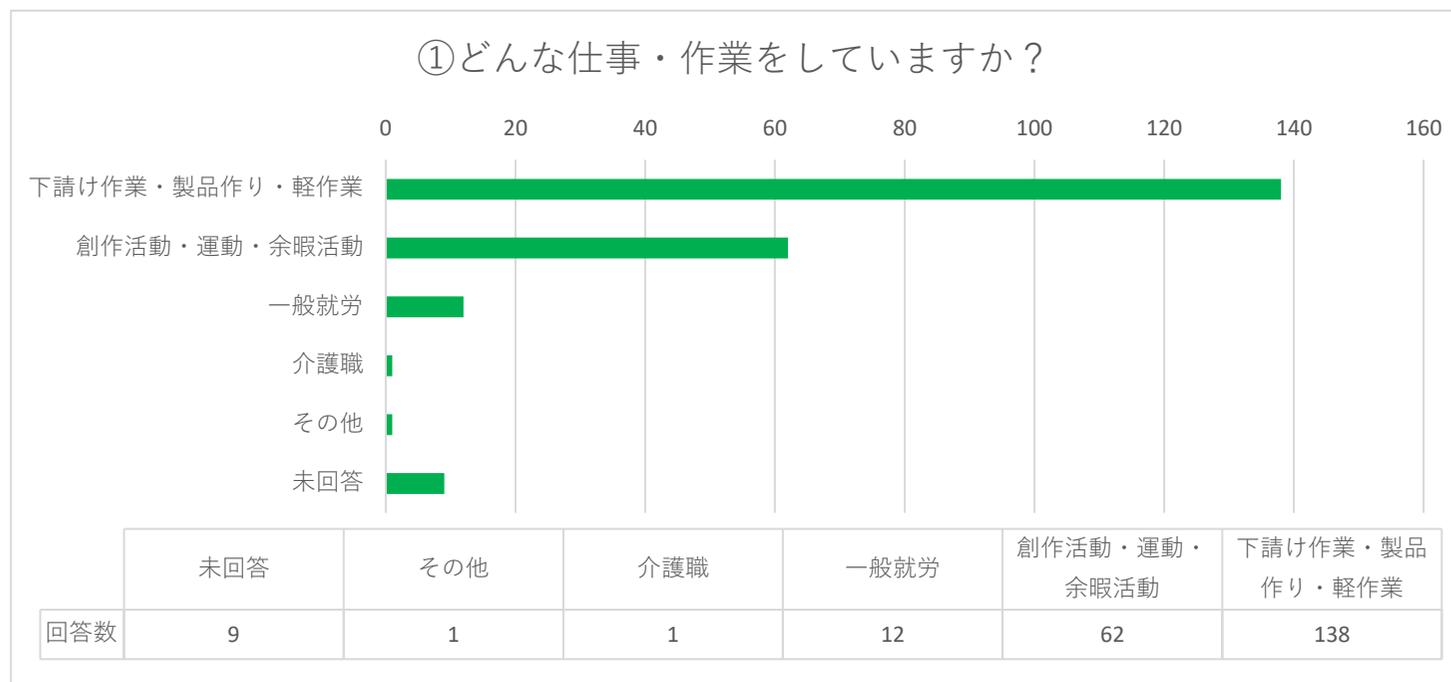
現在の住まい（グループホーム）は、住宅街に立地しており近隣には店舗なども存在する環境の良い所という事が窺えた。この回答から、グループホームを利用している方の多くは町の中で一人の市民として生活できる環境になっていることが推測できた。しかし、コメントの中には「下の部屋の人がうるさい」、「静かな所だが大きな道路が通っていて危険」といった意見もあり、生活する上での苦勞も垣間見られた。全体的には、上記の回答から57%（お店が近い、閑静な場所、良い所の比率）の方が現在の住まい（環境）に対して肯定的に感じている事が分かった。

④一緒に住んでいる人とお話ししますか？



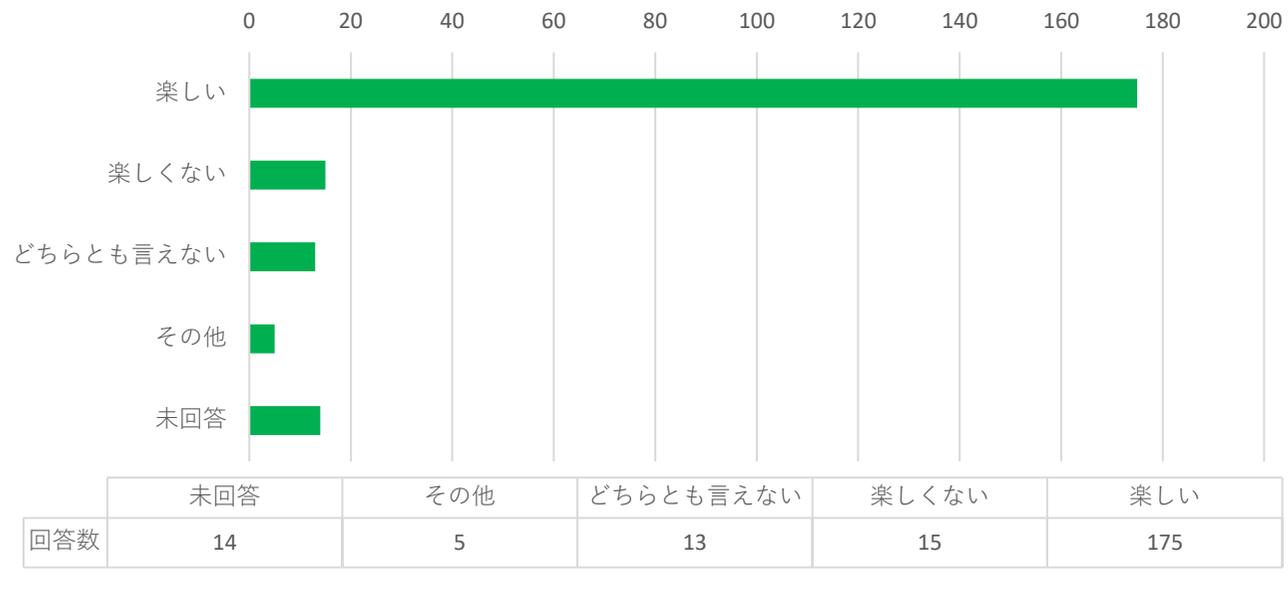
この質問への回答では、74%の方が同じホームの方と会話をしていることが分かった。「用事があれば話す」といったものから「一緒にテレビを見ている時」と言った回答まで、その時々に応じて会話をする機会があるという状況が見て取れた。しかし、回答の中では5.4%の方が「利用者同士の会話はできない」と答えており、そのグループホームにより独自の利用者間のルールが存在していることも浮き彫りとなった。

【職場・作業所・勤務先】

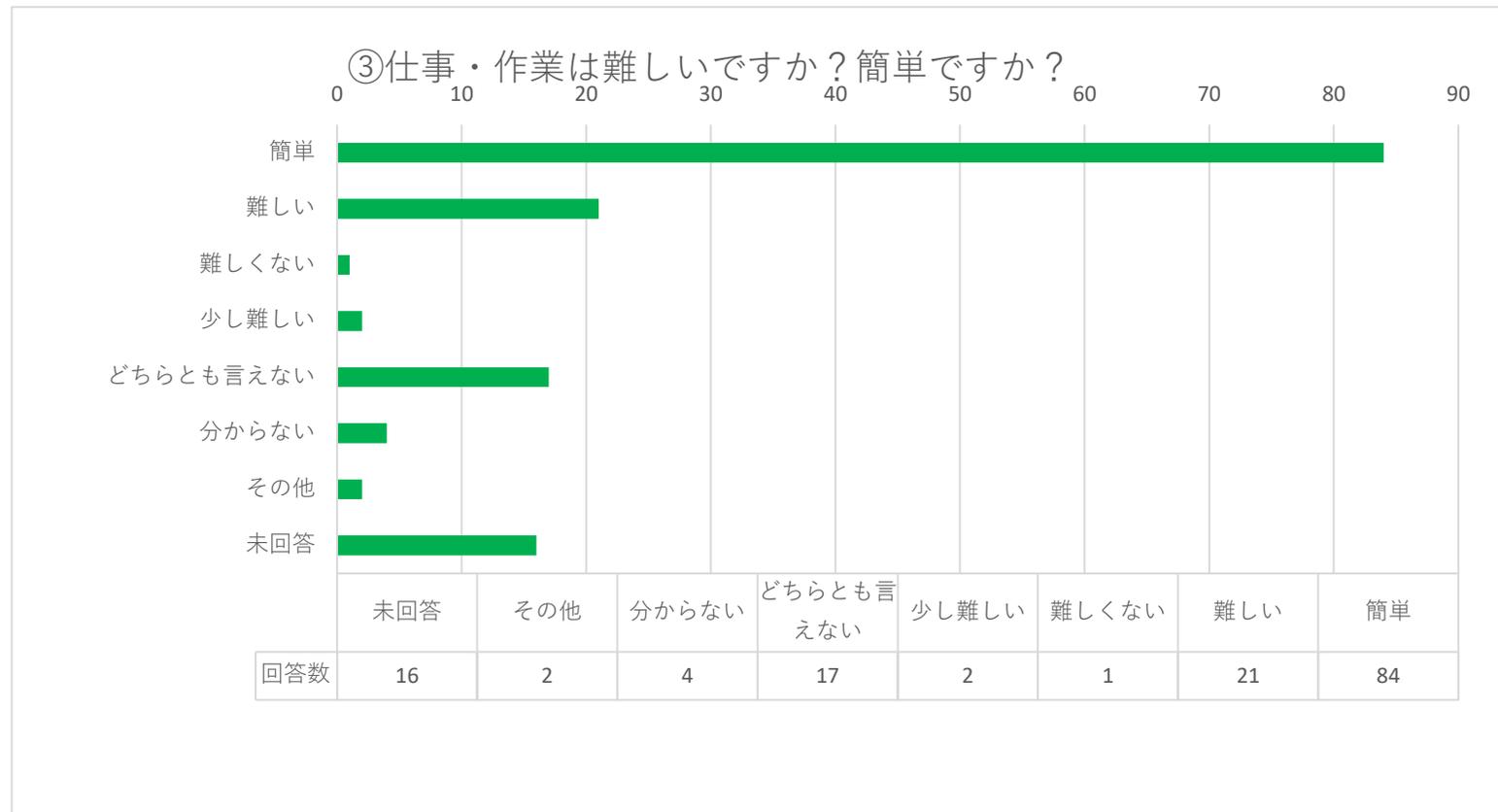


職業、作業所、勤務先に関する回答で最も多かったものは、「下請け作業・製品作り・軽作業」で61.8%という結果であった。また、一般就労している方は5.3%であり、先の回答と合わせると実に67.1%の方は日中事業所や就労先で仕事をしていることが分かった。仕事の内容としては工場の下請け作業などが多くを占めていたが、果樹園での仕事や農業をしていると言った回答も見られていた。

②職場・作業は楽しいですか？

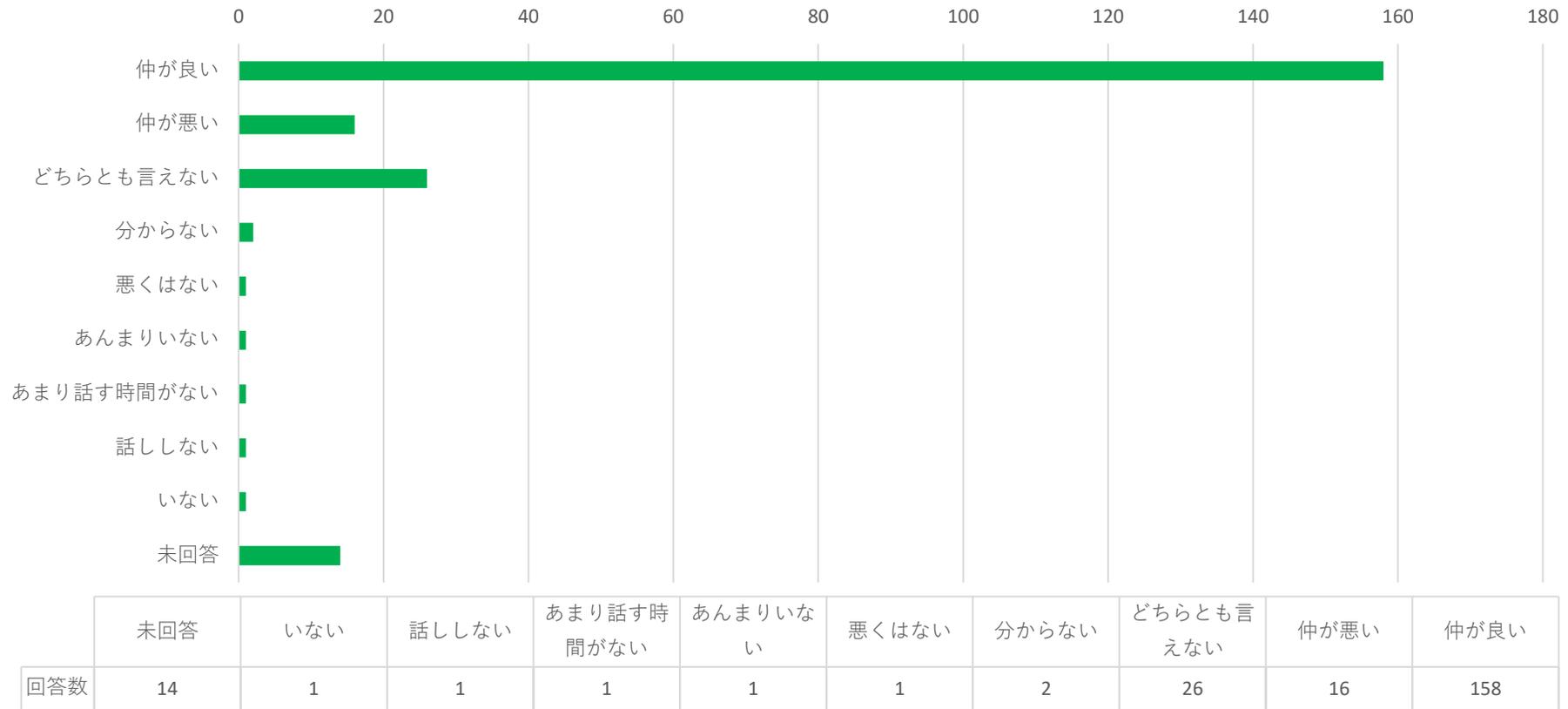


取り組んでいる日中活動に対して、それを「楽しい」と感じている方の割合は78.8%であった。「大変です。忙しい」、「大変だけど楽しい」という意見も聞かれており、仕事や日中活動に取り組むことを前向きに捉えている方が多いという結果が得られた。



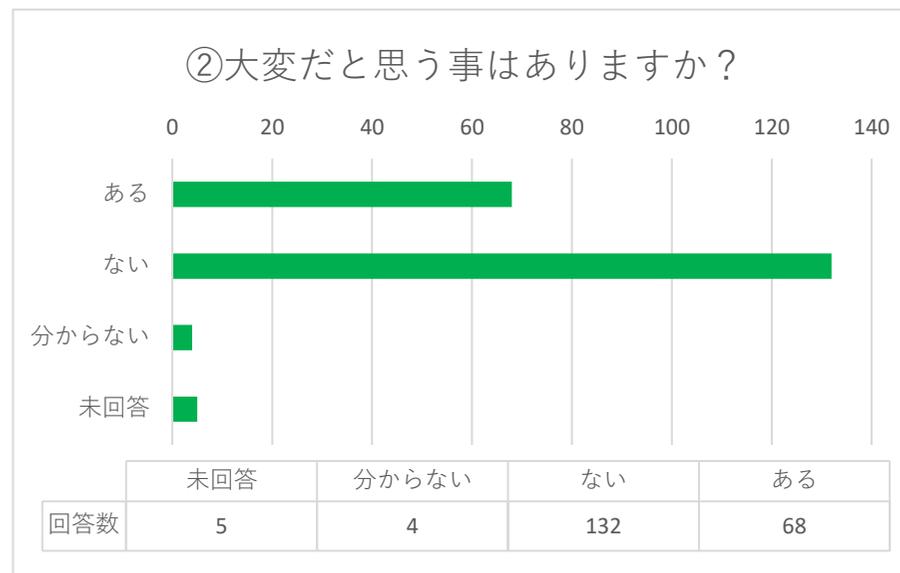
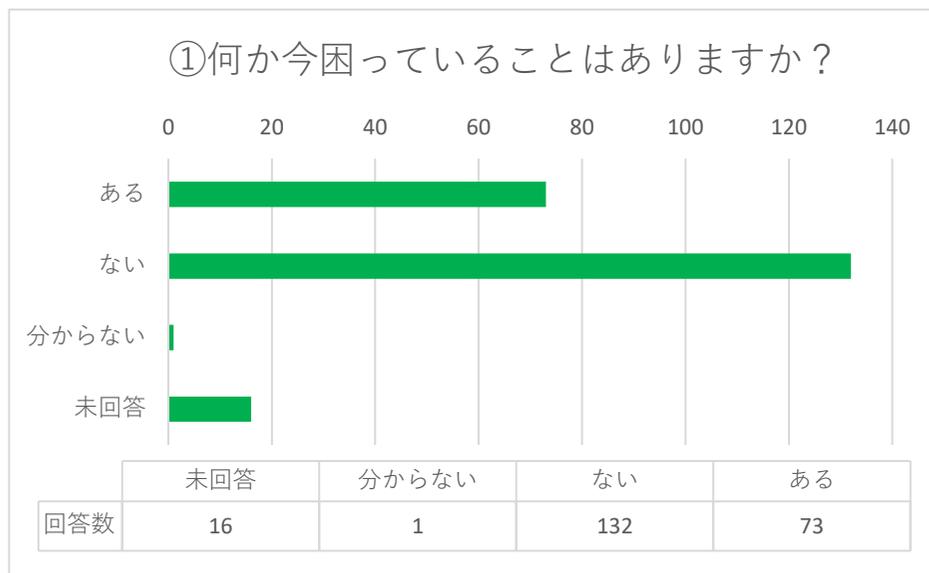
実際に行っている仕事について57%の方は「簡単」と感じていた。「難しい」と答えた14.2%の方のコメントには「作業内容が変わるとすぐには思えられない」、「昨年よりいろいろな仕事ができる良い」などの意見もあり、仕事へのやりがいを見出して取り組んでいる姿勢が窺えていた。

④職場・作業所・活動先の人とは仲良いですか？



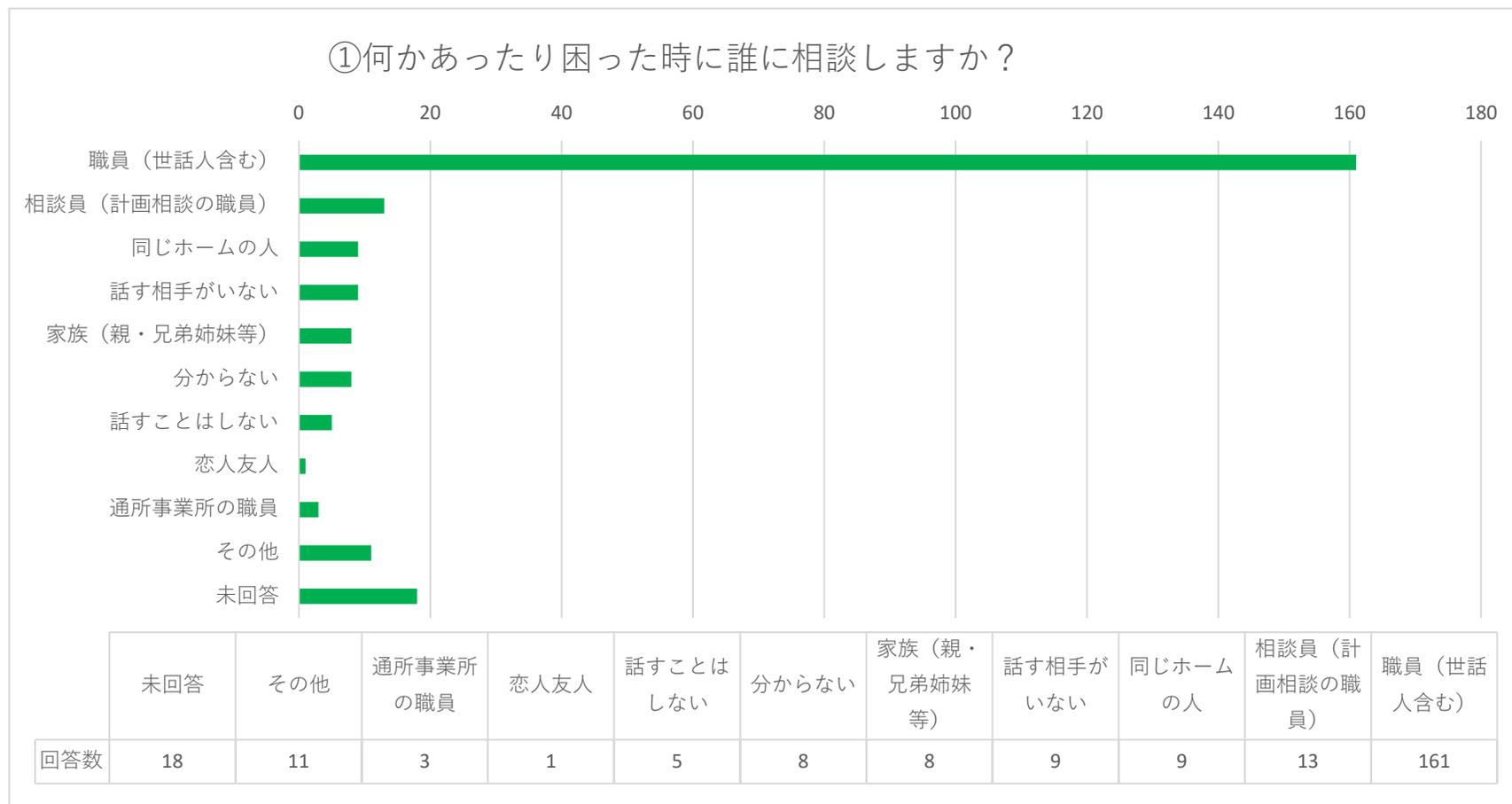
職場・作業所・活動先の人間関係について71.4%の方は「仲が良い」と感じていることが分かった。一方、「仲が悪い」、「どちらとも言えない」と感じる方も19%存在していた。

3、生活のしずらさについて



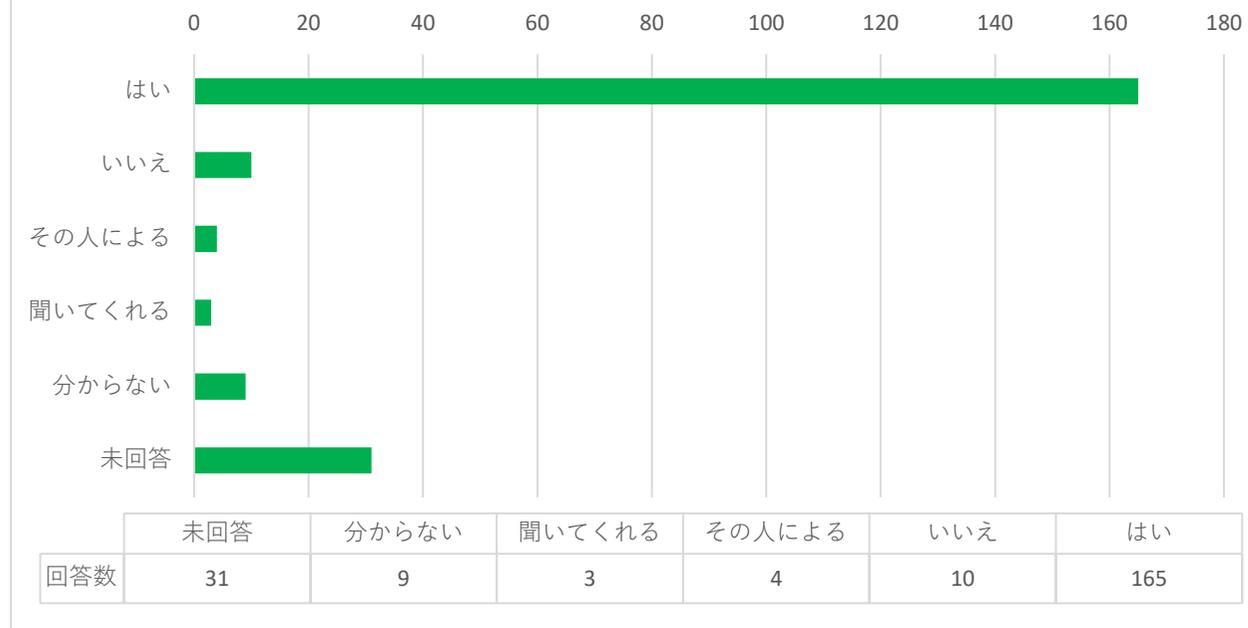
生活のしずらさに対する質問では、「困っている事」と「大変だと思う事」の回答がほぼ一致するという結果であった。困り事として認識している事柄は、日々の生活の中で大変であると感じる事に直結していることがこの結果から読み取れた。両方の質問で共通して聞かれた回答は、騒音に関するものが多く隣室の生活音だけでなく、近くを通る電車の音やテレビ、ラジオの音が気になるといったコメントが寄せられた。また、人間関係に関する回答もあり人との付き合い方に困難さを感じている方も見受けられた。少数回答ではあるが、健康に関する不安（通院・病気の事）や交通の便が悪く通勤や害手tが大変といった回答も確認できた。

4、困った時は誰に相談するか



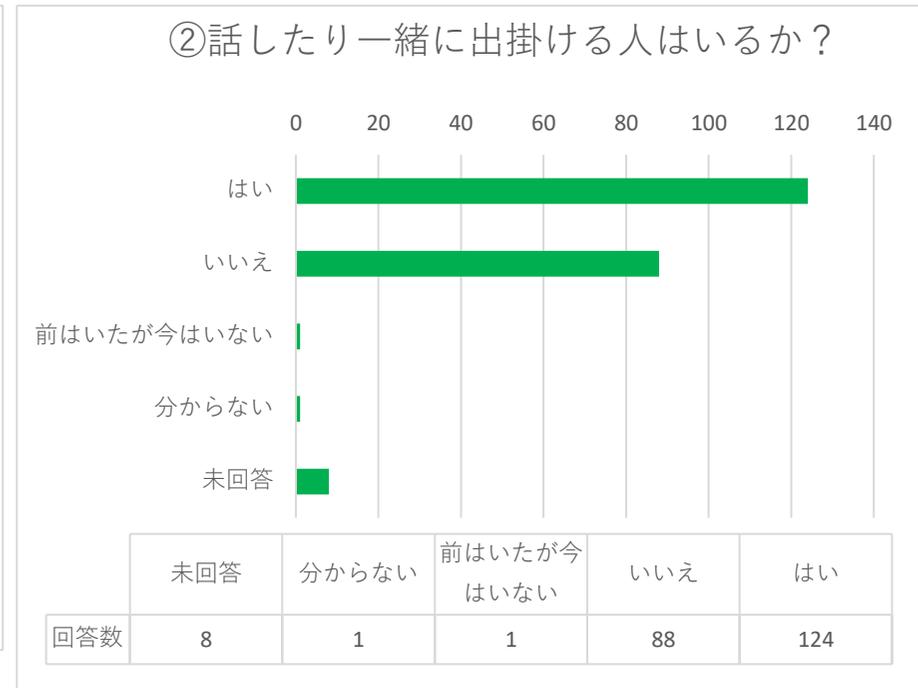
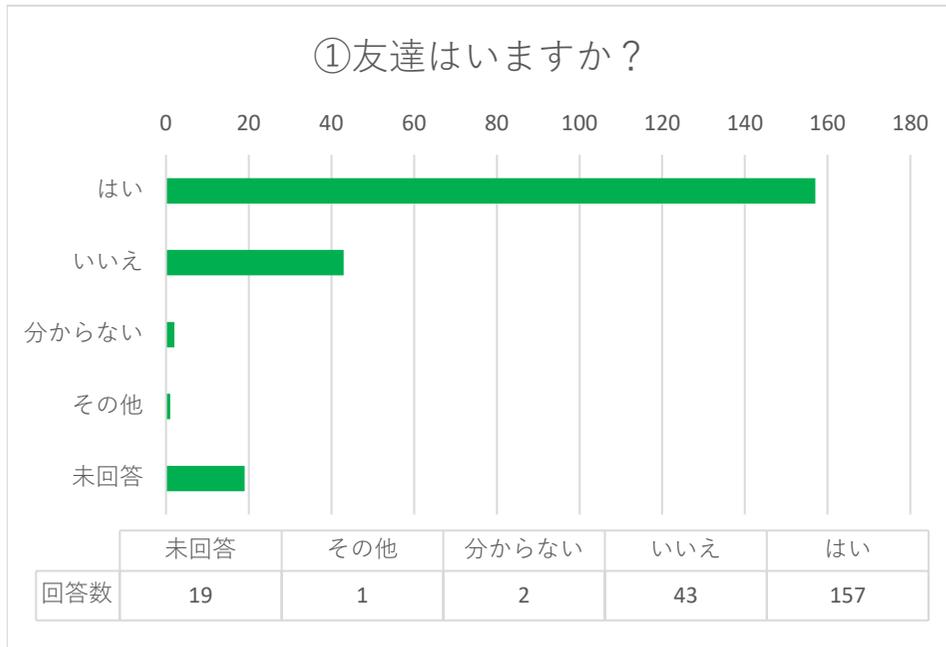
今回の調査では、半数以上である65.4%には困った時には職員又は世話人に相談すると回答していた。複数回答してくれた方の中には、計画相談の相談員と回答している方もおりそちらの回答数は全体の5.4%であった。また、「話さない」、「話す相手がいない」と回答している方もおり、こちらの回答数も全体の5.6%に上った。

②その人は色々と助けてくれますか？



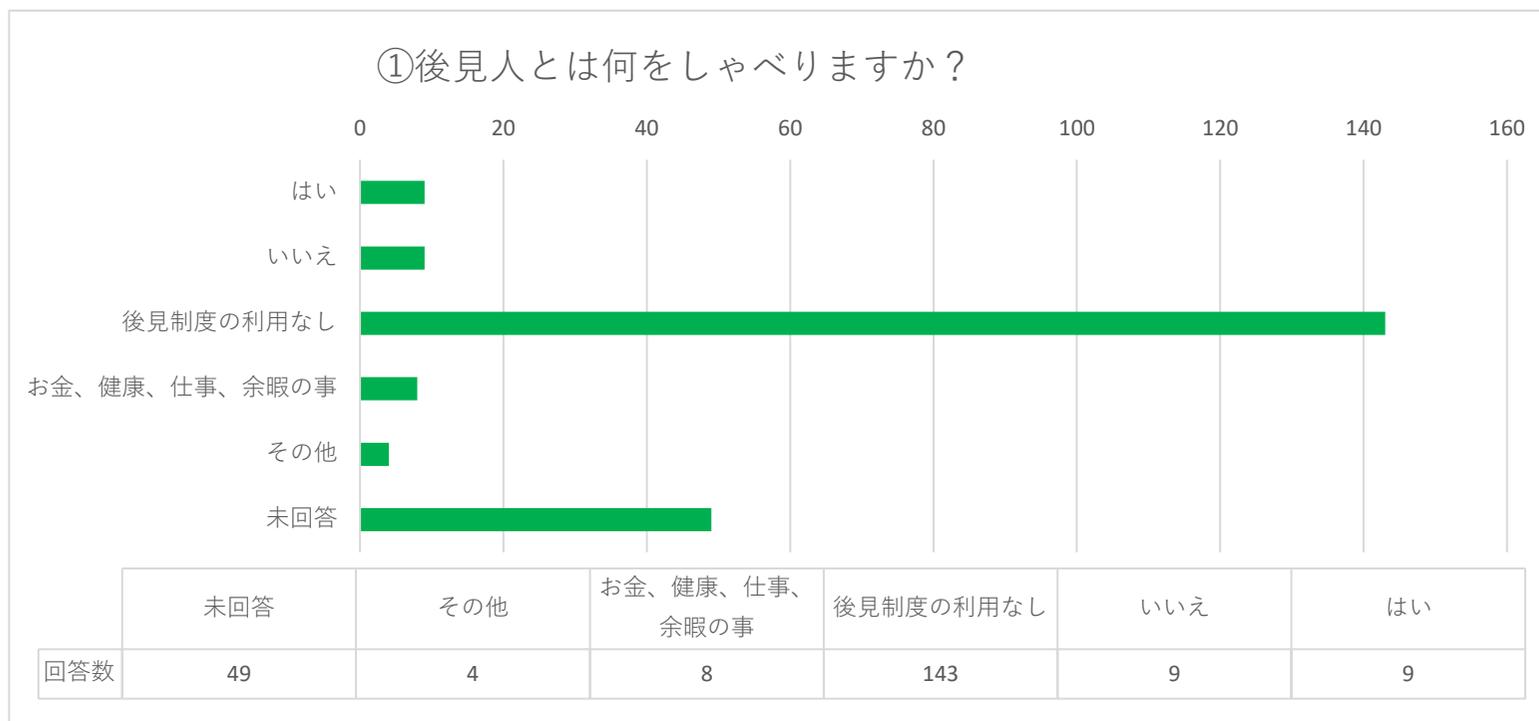
困りごとなどが生じたときに、相談をした相手に対し74%の方は「助けてくれる」と感じている。

5、友人はいるのか

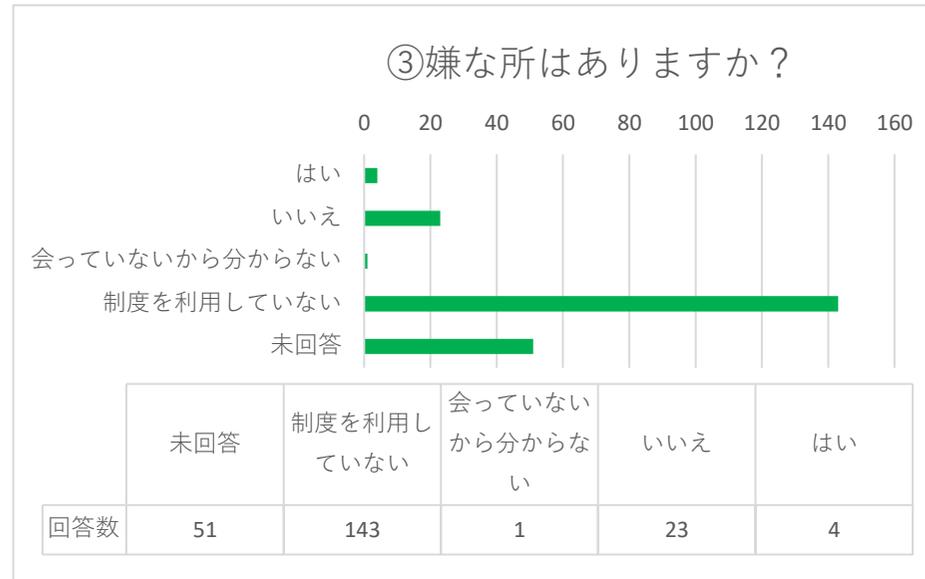
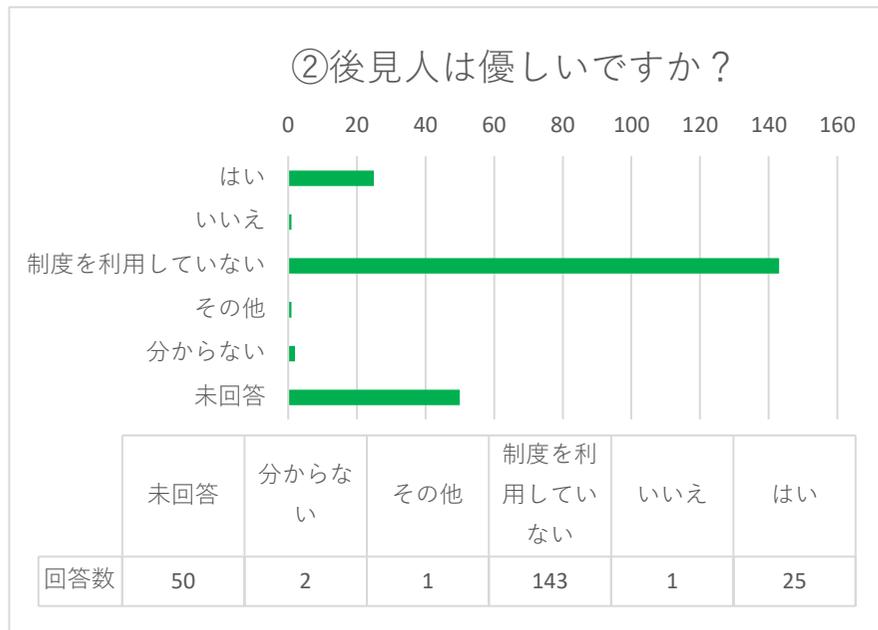


交友関係の質問では、70%の方が「友達がいる」と回答しており、友達がいると回答した方のうち「話したり一緒に出掛ける人がいる」と回答したのは78.9%に上った。一方、39.6%の方は話をしたり一緒に出掛ける人がいない状況であることも分かった。コメントとしては「話をするが出かけるときは職員と一緒に」や「おしゃべりはするが出かけない」と言った回答もあり、それぞれ自分のライフスタイルに合った交友関係を築いていることが窺えた。

6、成年後見人をどのように思っているのか



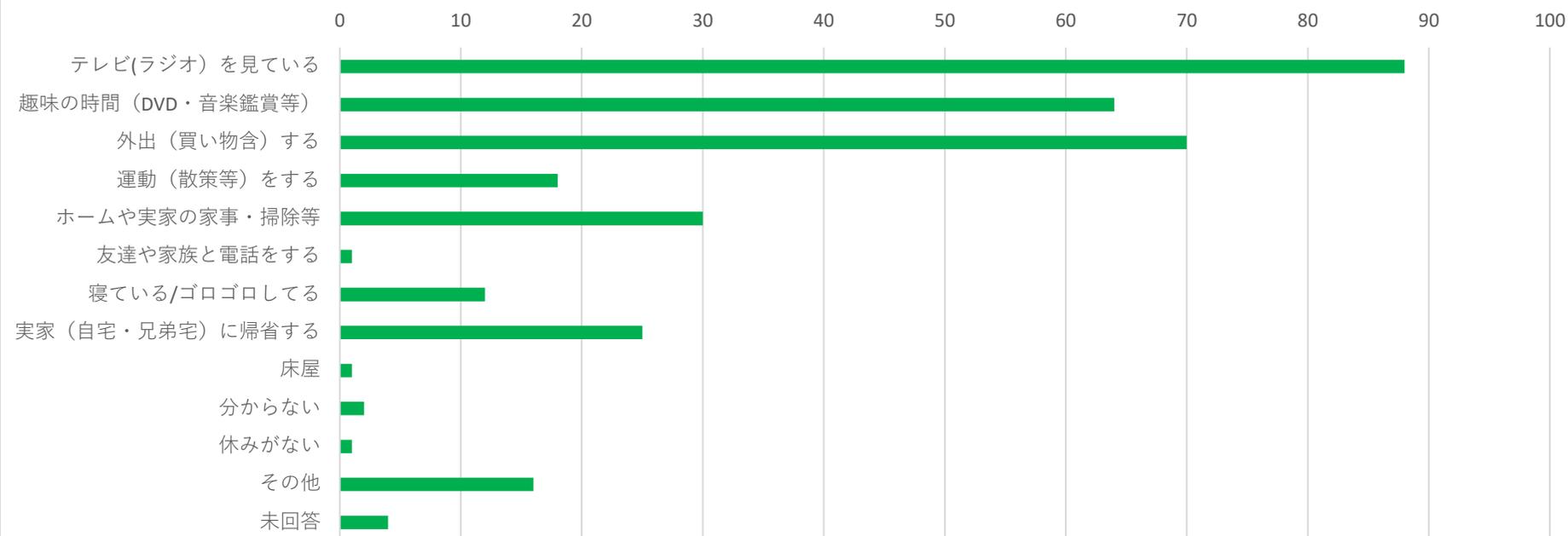
成年後見制度については、「その他」と「未回答」を抜かすと84.6%の方は制度を利用していなかった。また、「何かをしゃべる」と回答した方のコメントでは「会ったのは最初だけ」や「挨拶しただけ」という回答も見られた。実際に話をしている内容としては、制度を利用している方の生活に即した事（お金、健康、仕事、余暇）が中心であるという回答が得られた。



後見人に対する印象として、「優しい」と感じている方は96%となっていた。「嫌な所はありますか？」については、88%の方が「嫌な所がない」と回答している。

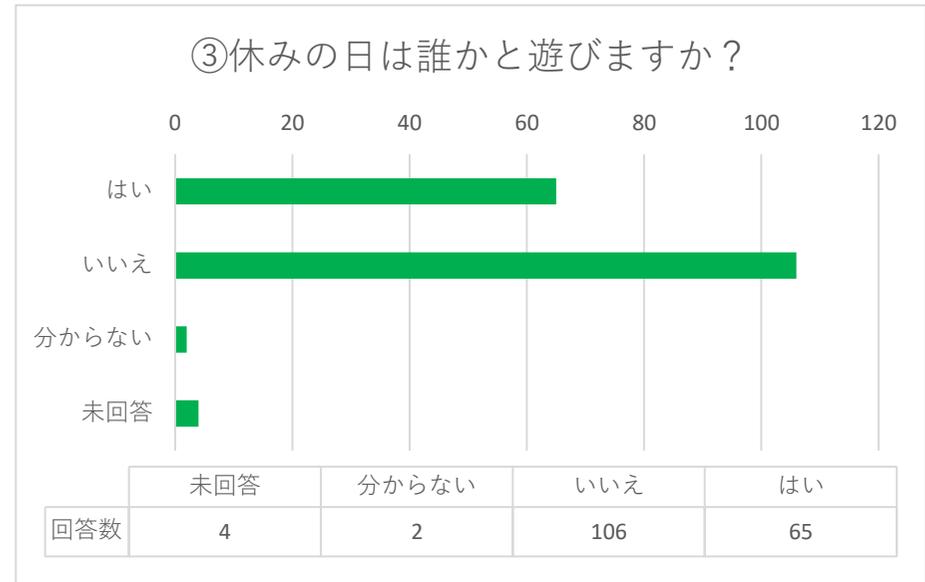
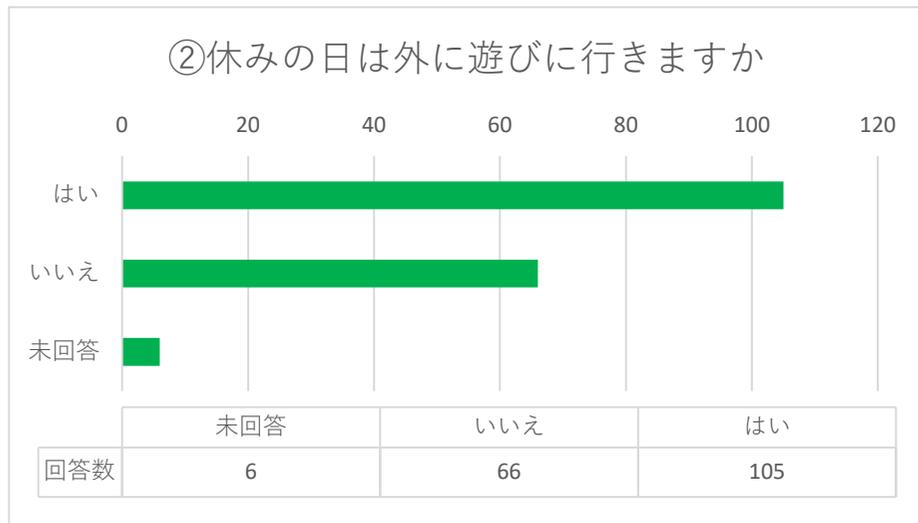
7、休みの日はどの様に過ごしているのか？

①休みの日は何をしていますか？



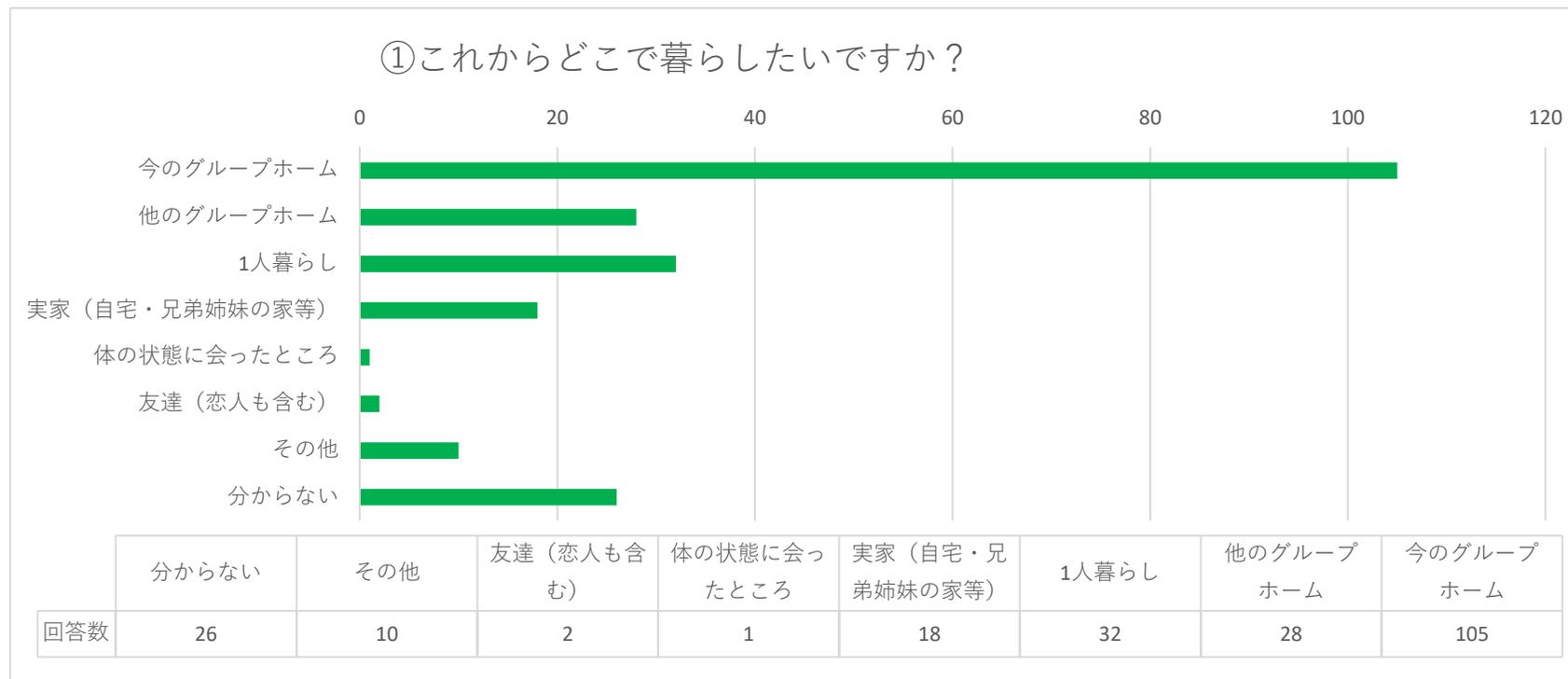
	未回答	その他	休みがない	分からない	床屋	実家 (自宅・兄弟宅) に帰省する	寝ている/ゴロゴロしてる	友達や家族と電話をする	ホームや実家の家事・掃除等	運動 (散策等) をする	外出 (買い物) する	趣味の時間 (DVD・音楽鑑賞等)	テレビ(ラジオ) を見ている
回答数	4	16	1	2	1	25	12	1	30	18	70	64	88

休みの日の過ごし方に関しては多岐にわたる回答を得る事ができた。最も多かったのは「テレビをみている」という回答であった。次いで「外出(買い物)」、「趣味の時間」という回答になっていた。11.2%の方は休日には自宅に帰省すると答えており、帰省中でも自宅の掃除や家事を手伝っているという回答も見られていた。回答の内容から、休みの日には気分転換を図る方が多くいて自分たちの楽しみや特別な時間として過ごしている実態が見えた。

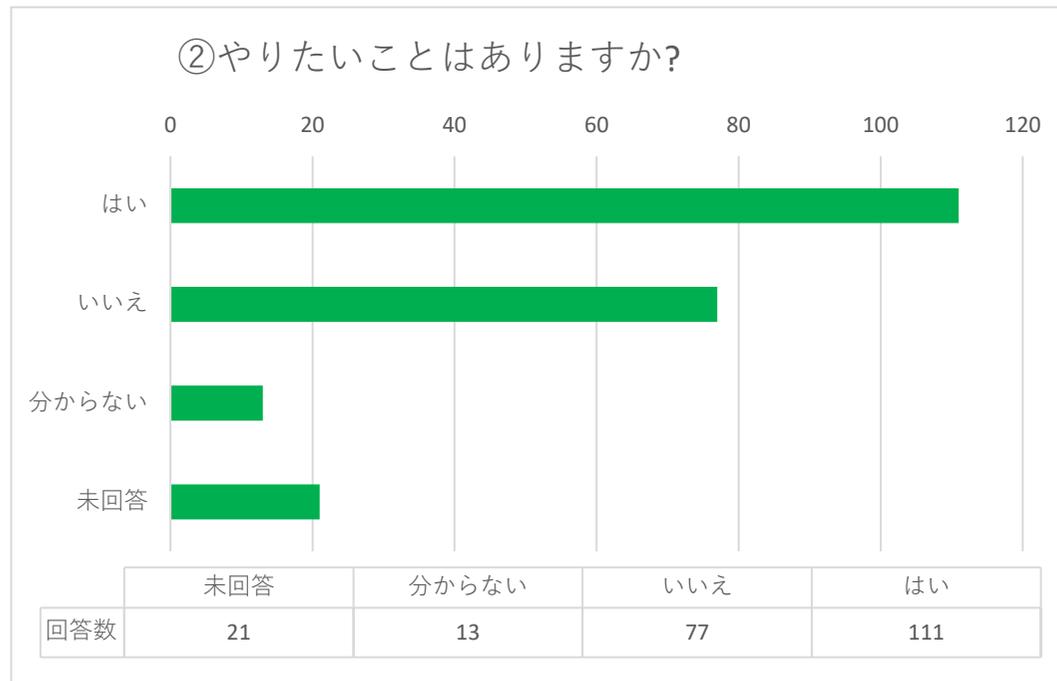


休みの日は外に遊びに行くという方が47%いるのに対し、誰かと遊びに行くという回答は29%に留まっていた。単独で外出している方が多い理由としては、コメントの内容から「移動支援」などのサービスを使って出かけている方が一定数いるためと思われる。また、一緒に出掛ける人として挙がっていた回答では「家族」、「同じホームの人」と言った回答が見られていた。

8 将来、どこで、どのように、誰と生活したいかなど望む生活

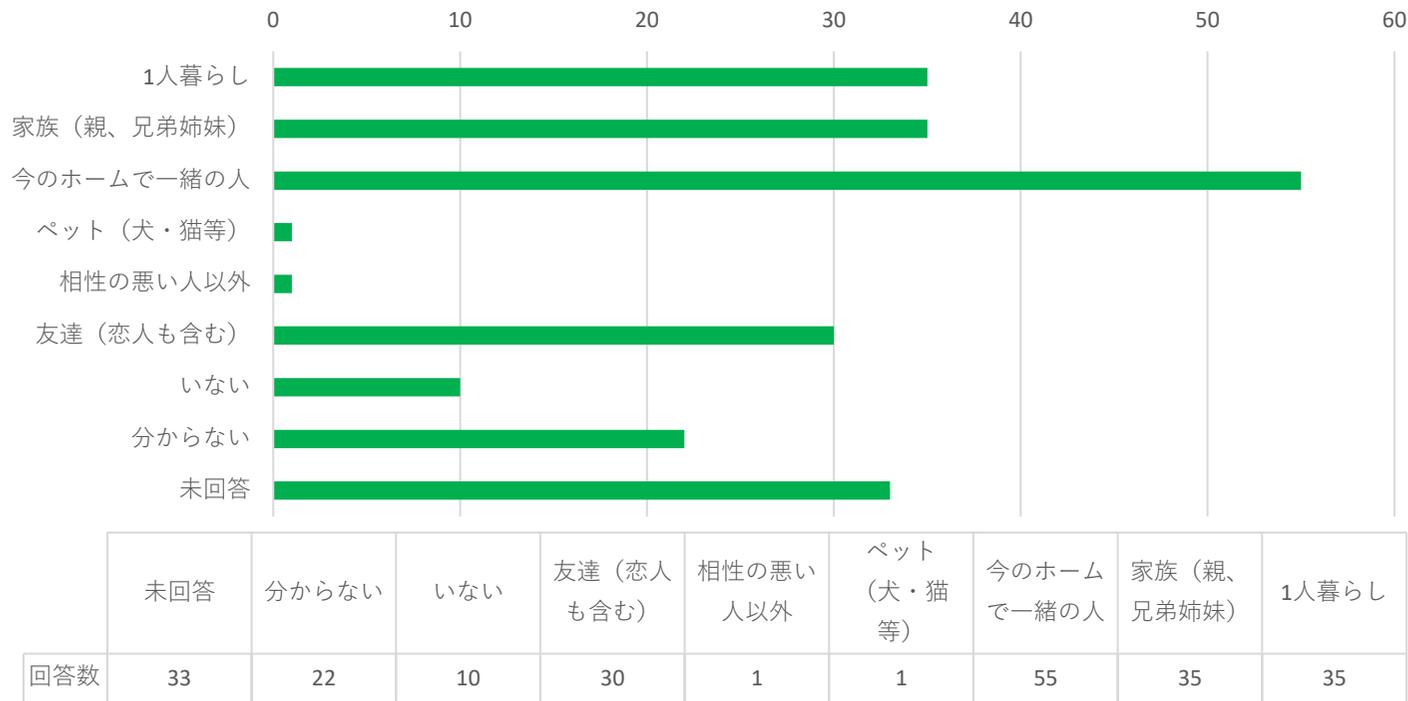


現在利用しているグループホームを継続して利用したいと考えている方は、47%という結果であった。他のグループホーム利用を考えている方が12.6%であったのに対し、一人暮らしを希望している方は14.4%であり、僅差ながら一人暮らしをしたという回答が上回る結果となった。

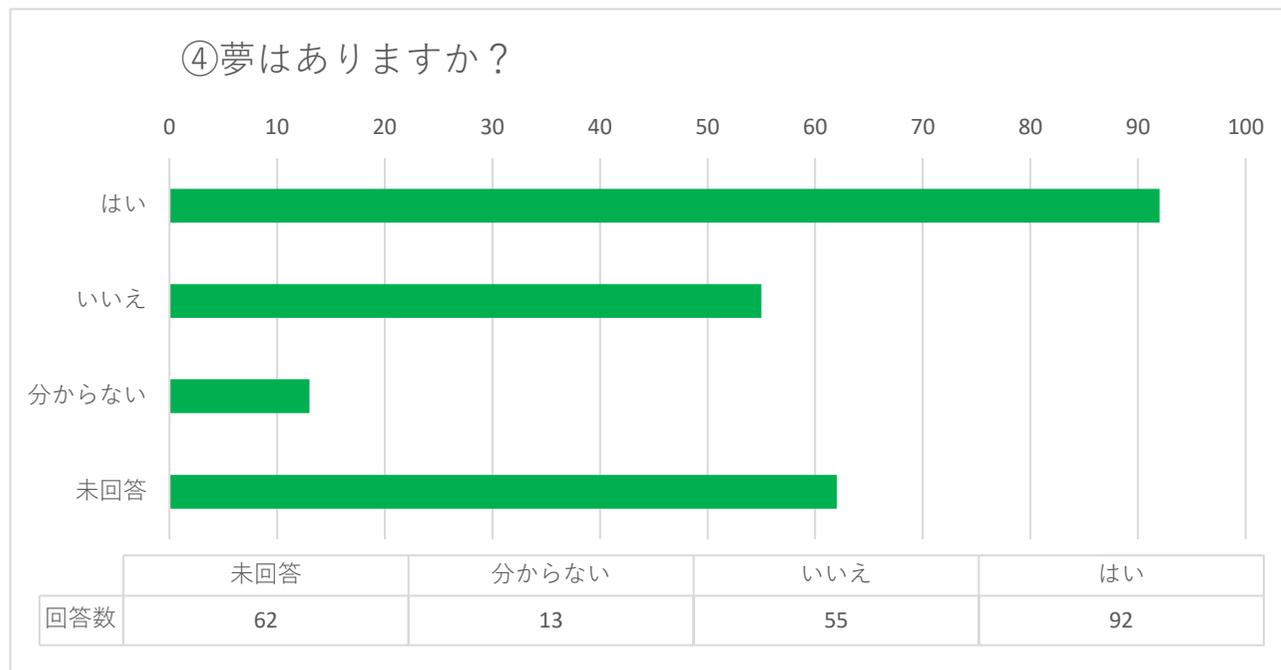


やりたいことがあるという回答はちょうど半分の50%という結果であった。回答の内容は夢や希望が溢れたものとなっており、特に多かった回答は「旅行に行きたい」、「仕事がしたい（就職したい）」、「趣味に取り組みたい（料理、編み物、スポーツ等）」というものであった。少数ではあったが「結婚したい」、「家庭を持ちたい」といった意見も聞かれていた。

③誰と生活したいですか？



設問①「これからどこで暮らしたいですか？」への回答では、「今のグループホーム」という回答が最も多かった。本設問への回答でもやはり「今のホームの人」と答えた方が最多で24.7%という結果であった。また、設問①で「一人暮らし」と答えた方は14.4%であったが、本設問でも「一人暮らし」と答えた方は15.7%でほぼ同数であった。設問①「これからどこで暮らしたいですか？」では「実家（自宅、兄弟姉妹の家）」と回答した方は5.4%に留まっていたが、本設問「誰と生活したいですか？」への回答では「家族（親、兄弟姉妹）」の割合が15.7%であったことから、住まいの場としてはグループホームを希望するが、一緒に住むのは家族（親、兄弟姉妹）が良いと考えている方が多く存在していることが分かった。



回答者の41%の方は「夢がある」と答えているが、約4分の1に当たる24.7%の方は「夢はない」と答えていた。「夢がある」と答えた方のコメントは「芸能人に会いたい」、「旅行に行きたい」、「結婚したい」、「携帯電話が欲しい」など日常の中のささやかな願い事が込められた回答となっていた。

9 総括

本調査の結果から、グループホーム生活は全体として安定しており、利用者の満足度は概ね高い水準にあることが確認された。特に、一人部屋を中心とした住環境は、プライバシーの確保や個々の生活リズムの尊重という観点から大きな成果であると評価できる。また、入所施設から地域生活への移行が着実に進んでいる実態も明らかとなった。さらに、日中活動に対する評価も良好であり、仕事や活動が生活の一部として前向きに受け止められている状況がうかがえた。一方で、騒音に関する困りごとや人間関係への不安、「相談相手がいない」といった回答も確認されており、今後の支援における課題も示された。これらの結果から、生活環境の調整や相談支援機能の強化、余暇活動および社会参加支援の充実など、生活の質（QOL）の向上に向けた取り組みの重要性が示唆された。本調査結果については、評価に留めることなく、環境改善や支援の優先順位を検討するための基礎資料として活用することが重要である。また、職員間での共有を通じて支援の視点の統一を図るとともに、継続的な調査実施により変化や改善効果を把握していくことが、今後の支援の質の向上に資するものと考えられる。